

令和5年度 学校評価アンケートの結果について

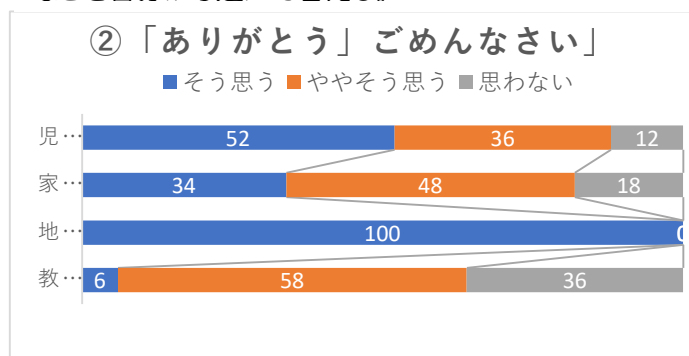
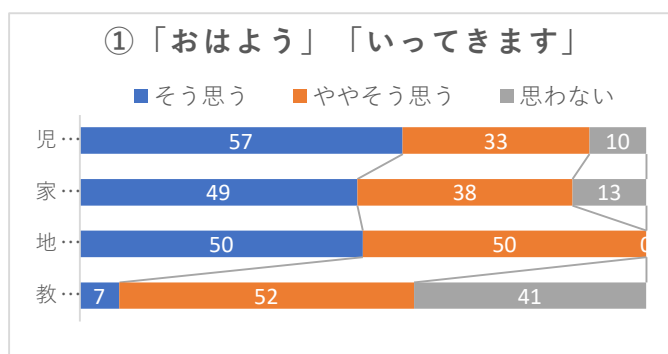
仙台市立遠見塚小学校

保護者の皆様のご理解とご協力によりまして、充実した教育活動ができましたことに感謝申し上げます。お寄せいただいたご意見等につきましては、新年度の学校運営や児童への指導に活かしてまいります。

【協働型学校評価について】

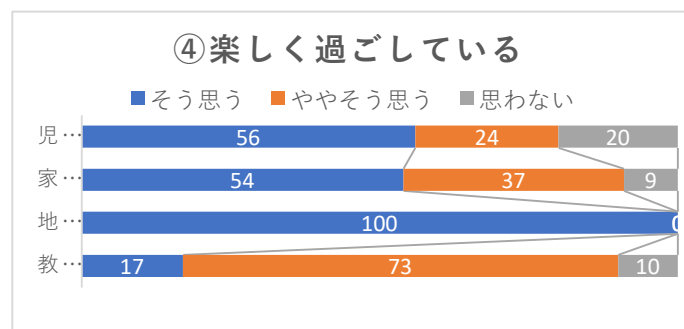
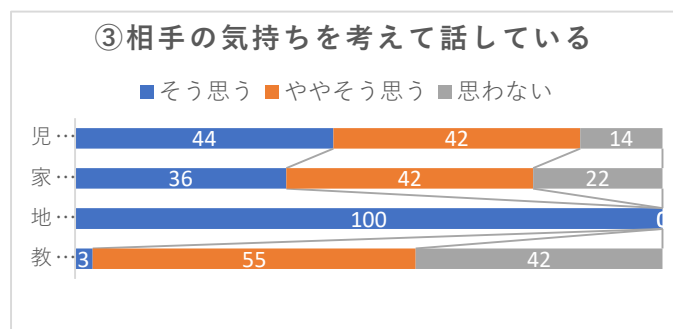
1. 児童は「おはよう」「さようなら」「ってきます」「ただいま」などのあいさつを自分から進んでしている。

2. 児童は、「ありがとう」「ごめんなさい」「すみません」などを自分から進んで言える。



3. 児童は、相手の気持ちを考えて話している。
(相手の嫌がることや傷つくことを言わないなど)

4. 児童は 楽しく学校生活を送っている。



「協働型学校評価」とは、学校・家庭・地域が協働してより良い児童の育成を目指して設定する目標です。本校の今年度の重点目標は、「関わり合いを大切にする子どもを育てる～コミュニケーション力の育成」です。

回答結果を見ると、児童はあいさつについては「できている」という肯定的な回答が多く、「相手の気持ちを考えて話す」という項目では、明確に「できている」とは言い難い現状です。

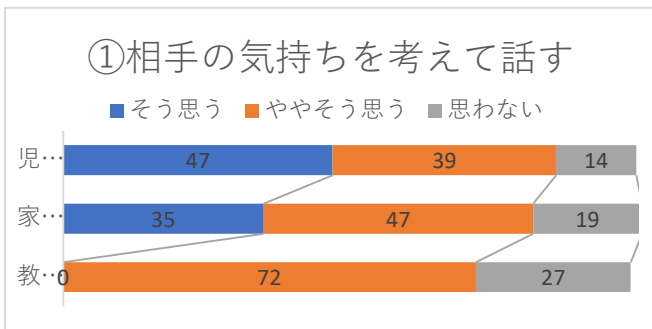
教職員の中では、「教職員から挨拶をすると、一定数の児童を除いてはしっかりと挨拶を返す児童が増えてきている」と感じている割合が増えています。まず、大人が範を示したことで、児童が挨拶の習慣が身に付いたと実感したと思われます。今後は、校内だけでなく、地域に住んでいる方にも挨拶の声が自然に届くようにさらに指導していきます。

今年度は学校教育目標の中の「やさしい子」の育成について、重点的に取り組んできました。各学級においては、相手の気持ちを考えた言葉「ふわふわ言葉」や、言われると悲しくなる言葉「ちくちく言葉」などを具体的に示し、相手が傷つくことや嫌なことを言わない雰囲気づくりに努めてきました。児童自身が自分の言動について、適切に振り返りができたことが、数値に表れていると思われます。今後は、思いやりの言葉と同時に、時と場に応じた言葉遣いや敬語の使い方などについても指導してまいります。

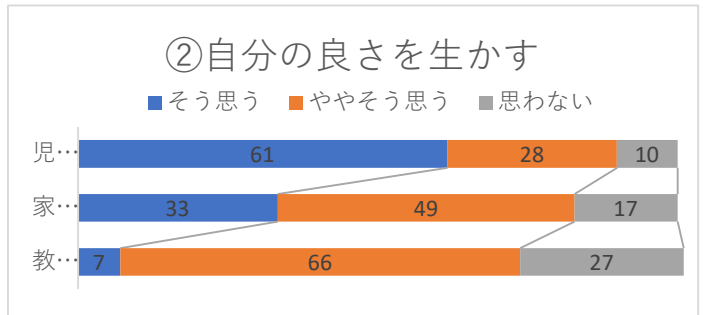
【学校教育目標について ①】

*「やさしい子」に関して

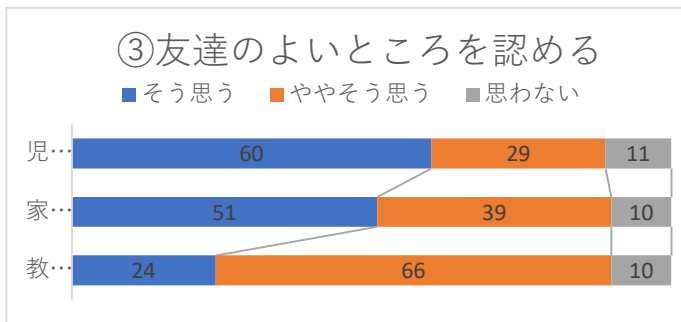
1. 相手の気持ちを考えて話している



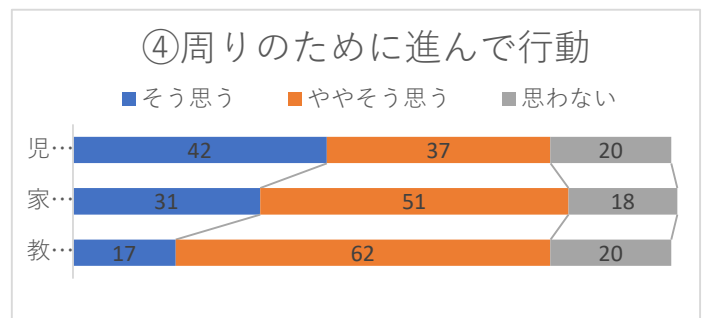
2. 自分の良いところを生かしている



3. 友達の良いところを認めている



4. 友達や周りの人のためになることに進んで取り組んでいる



今年度の重点指導事項は、「やさしい子」の育成でした。4つの項目すべてにおいて、児童の回答が、「そう思う」「やや思う」の割合が多くなりました。児童が日常的に意識して学校生活を送ることができたということが分かります。一方で、重点的に取り組んだが、指導について想定以上の難しさがあったことが教職員の評価からうかがえます。児童に対する期待の高さとも考えられます。

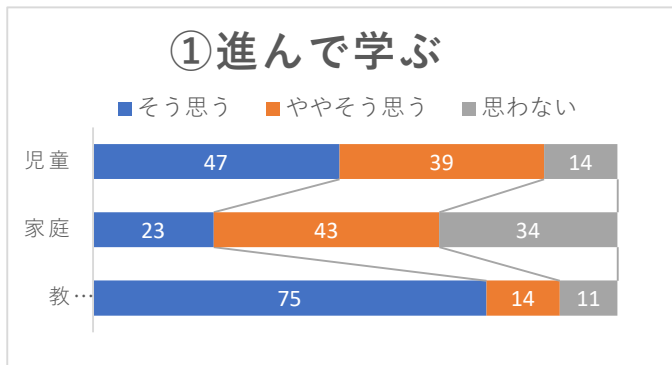
②「自分の良いところを生かしている」という質問では、4月に実施した仙台市生活・学習状況調査(2～6年「自分には良いところがあると思う」)の回答率と比較したところ、15%以上も上昇しました。

③「友達の良いところを認めている」について、教職員の9割が「そう思う」「ややそう思う」と回答しています。学級における指導だけでなく、計画委員が企画し、全校一斉に「いいところ見つけ」を行いました。具材の形に切った用紙にそれぞれが友達の良いところを記入し、鍋の形をした模造紙に貼り付けました。(現在、職員室前に掲示しております)このような一つ一つの取り組みの成果が、「やさしい子」の育成の面で、少しずつ表れてきていると感じています。

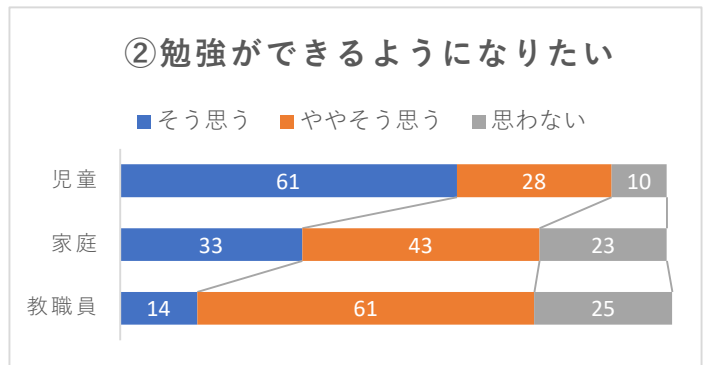
【学校教育目標について ②】

*「進んで学ぶ子」に関して

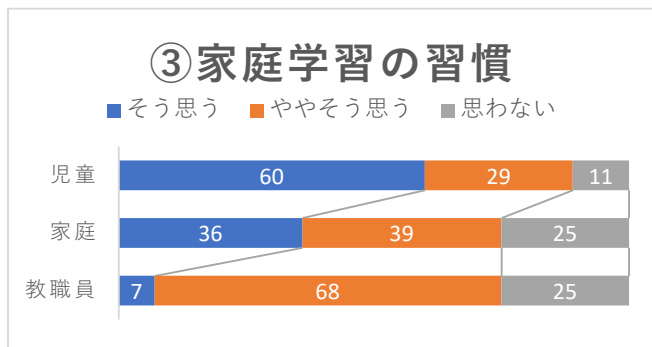
1. 進んで学習に取り組んでいる



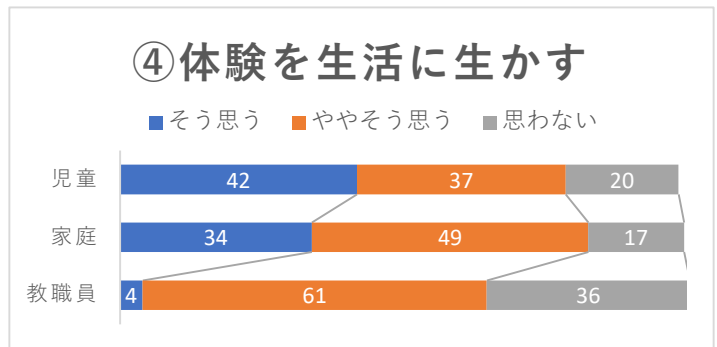
2. 勉強ができるようになりたい



3. 家庭学習の習慣が身についている



4. 体験したことを生活に生かそうとしている



「進んで学習に取り組んでいる」については、児童と教職員の肯定的な回答は、ほぼ同率であるが、家庭からの回答のうち、3割が「思わない」という現状です。児童の学びの姿を積極的に家庭へ共有できる方法を考えます。また、「勉強ができるようになりたい」と回答した児童が9割となり、今後も児童にとって「分かる授業」となるように、指導の工夫を行います。

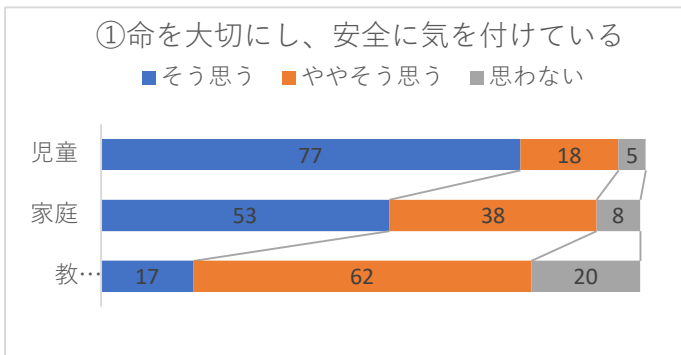
4月の仙台市学習生活状況調査では、「学校の宿題があったことを忘れて、やらないことがある」が21%であったところが、今回のアンケートでは、「家庭学習の習慣(宿題や自主学習)が身につけている」と答えた児童が約9割となり、家庭学習の習慣が身に付いたと実感している児童が増えたと考えています。これは、各学年の実態に応じて、宿題の内容や方法を工夫し、家庭で取り組みやすいものを課題としたことが影響しています。また、学年によっては、保護者に採点や確認をお願いし、児童への励ましのご協力をいただいております。家庭内で、一人で計画的に学習できるようになるまでは、時間と経験が必要です。今後ともご協力をお願いします。

コロナ禍で制限されていた学習活動が5月以降緩和され、各学年とも様々な体験学習や外部講師派遣による学習を取り入れてきました。体験的な学習の前後には、事前学習と振り返りを必ず行い、学びを深めてきました。今後も、学校生活での貴重な体験を「かけがえのない学び」にするために指導を工夫してまいります。

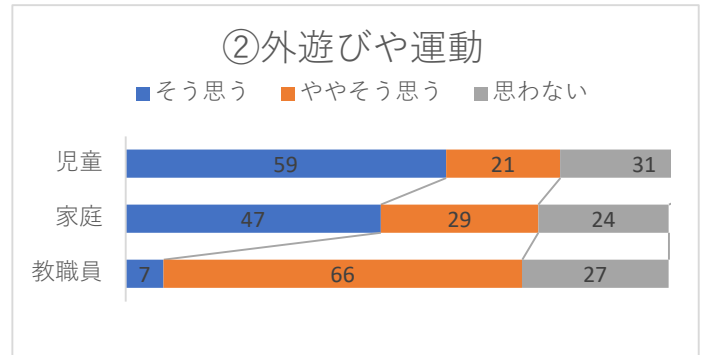
【学校教育目標について ③】

*「たくましい子」に関して

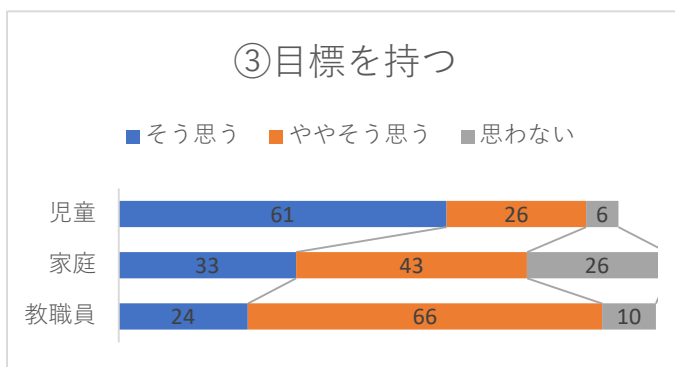
1. 命を大切にし、安全に気を付けている



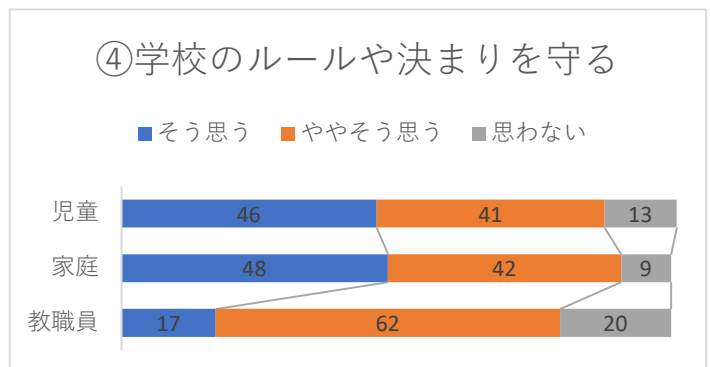
2. 外遊びや運動に積極的に取り組んでいる



3. 目標を持って頑張っていることがある



4. 学校のルールや決まりを守っている



休み時間には、多くの児童が校庭に出て、遊んでいます。一方で、教室でクロームブックを使うことに夢中になり、外遊びをしない児童も一定数あります。「とおみっ子マラソン」や「ドッジボール大会」などで、意図的に体を動かす機会を設定する取組は、今後も継続します。

また、宮城県の肥満率が高いことを心配されている保護者の声も聞かれます。新型コロナウイルスの長期的な流行による運動不足や、学習以外のスクリーンタイム(ゲーム等)の増加が原因と言われています。体育の授業だけでなく、日常的に体を動かすことに興味関心が持てるように、今後も指導を行ってまいります。

③「目標を持つ」ことについて、学校では目標を持つだけでなく、粘り強く努力することに重点を置き、取り組んできました。失敗を恐れず、粘り強く努力し、挑戦し続けることで、達成した際には何倍もの大きな喜びを味わうことができます。学校生活においては、このような努力の積み重ね、挑戦することの意義をできる限り体感できるように支援します。

④の学校のルールや決まりを守ってるか、という質問に対して「そう思う」が「ややそう思う」をわずかに上回っていました。集団生活において、互いを大切に思い、過ごしやすい生活するために、様々な場面で指導を行っています。児童が自信をもって「守っている」と言うことができるように、ルールや決まりの意義についても継続して指導いたします。